

今週（8月12日から8月15日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、前週に引き続き調達ニーズが強く、出会いの水準は0.475～0.478%が中心となった。12日(火)と14日(水)には試し取りを実施する先も見られたため、0.478%を上回る水準での出会いも散見された。加重平均レートは、12日(火)から14日(木)は0.477%で推移し、15日(金)も概ね同水準となることが見込まれる。ターム物は、1W～3M程度の幅広い期間で引き合いが散見されたが、前週に引き続きビッドサイドの資金調達ニーズがやや弱く、新規で目立った動きは見られなかった。

日銀当座預金残高は、週初517兆円台でスタートし、その後は減少傾向となるなか14日(木)に5年国債発行や源泉所得税揚げにより514兆円台半ばまで減少したものの、15日(金)には年金定時払い等により523兆円程度での着地が見込まれる。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね0.485～0.50%程度で推移する展開となった。SC取引の個別銘柄では、カレント近辺の銘柄に引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンのレートが若干上昇した。15日(金)に実施された3M物入札は、レート調整が行われ前回債対比で上昇する結果となったが、結果発表後のセカンダリーでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、卸売業、不動産、石油等の業態から大型の発行案件が見られた。市場残高は、25兆円台前半で推移する展開となった。発行レートは、引き続き0.5%以上で推移しており、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/11 (月)						
8/12 (火)	42,718.17	1.499	148.40	0.477	0.490	5,176,400
8/13 (水)	43,274.67	1.515	147.78	0.477	0.490	5,169,900
8/14 (木)	42,649.26	1.550	146.57	0.477	0.488	5,146,600
8/15 (金)	43,378.31	1.560	147.59	0.477	0.491	5,229,700

来週（8月18日から8月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/18 (月)	6月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				
8/19 (火)	6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TDB1Y 8/20発行 32,000億円	20Y 8/20発行 8,000億円		7月の米住宅着工件数
8/20 (水)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の貿易統計(財務省 8:50)				7月のユーロ圏消費者物価指数改定値 7月の英消費者物価指数
8/21 (木)			流動性供給 8/22発行 6,500億円	交付税借入 8/29借入 10,500億円	ジャクソンホール会議（23日まで） 7月の米中古住宅販売件数
8/22 (金)	7月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 6月のサービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TDB3M 8/25発行 43,000億円			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/18 (月) 日銀予想	200	▲ 4,000	▲ 3,800	被災地支援 国債補完供給	▲ 300 400	100	200	▲ 3,600	TB3M発行▲43,000償還45,000 10Y物価連動発行▲2,500
8/19 (火) 弊社予想	1,000	▲ 1,000	0				0	0	
8/20 (水) 弊社予想	500	▲ 7,000	▲ 6,500	共通担保	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 14,500	TB1Y発行▲32,000償還32,000 20Y発行▲8,000 エネルギー借入▲3,000期日4,500
8/21 (木) 弊社予想	1,000	9,000	10,000				0	10,000	
8/22 (金) 弊社予想	▲ 1,000	▲ 6,500	▲ 7,500				0	▲ 7,500	流動性供給▲6,500
週間合計	1,700	▲ 9,500	▲ 7,800	—	▲ 7,900	100	▲ 7,800	▲ 15,600	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズの強い展開が見込まれる事から、レートは横ばい圏で推移することが予想される。ターム物に関しては、調達ニーズが弱い中、利上げを織り込むレート水準になるかが注目される。債券レボGC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、0.40～0.51%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、19日(火)に1Y物、22日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、五・十日発行を控えており、発行案件がどの程度膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では、20日(水)に7月の貿易統計、22日(金)に7月の全国消費者物価指数、海外では、20日(水)に7月のユーロ圏消費者物価指数改定値、7月の英国消費者物価指数、21日(木)にジャクソンホール会議などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入